

長編劇映画 企画書

# IL KIMONO



**MIYABI** Promotion  
Project proposal

IL KIMONO PRODUCTION COMMITTEE

# 制作テーマ

- 作品は海外展開を前提として制作する。
- 悠久の時を超え、連綿と受け継がれてきた日本の伝統衣装きもの。日本文化の美意識の象徴ともいえるKIMONOの魅力を海外にアピールするとともに、グローバルな視点から和装離れが急速にすすむ日本人に向け、きものの価値の再発見と伝統文化継承の意識の向上につながる作品をめざす。
- 予定ロケ地は、おもに絹織物の代表的な産地「西陣」と、西陣織発祥と同時代に絹織物の最盛期にあったイタリアのフィレンツェ。



# 概要

- 物語の舞台は京都・西陣。主人公と、その母と祖母。西陣で生まれ育った三世代の女性が織りなすドラマを軸に、それぞれが生きてきた時代の背景にあった西陣の栄枯盛衰、そしてフィレンツェとの関りから衰退した機業の再生に活路を見いだしていく。
- 物語はフィクションのため、登場する人物や団体の設定は架空だが、現存する実在の企業や人物は可能な範囲で随所に登場させることで地域からのリソースを得やすくする。



# 制作趣旨

『西陣織』の生産量は1970年代の半ばにピークを迎えた。しかしその後、和装産業は斜陽化し、西陣織の市場も縮小の一途をたどる。西陣織の2023年の出荷量を1975（昭和50）年と比較してみると、帯地が96.5%減の3.5%。きもものでは98.6%減の1.4%にまで激減している。1000年以上もつづいた伝統工芸が、わずか半世紀ほどのあいだに急激に衰退し、いまや消滅の危機に瀕している。

その一方で、きものは海外で高く評価され、人気を集めている。フランス・パリには「Comptoir de Kimono」や「KIMONO ARCH / Y. & SONS in Paris」などの日本から進出した呉服専門店がオープンしており、イタリアでも、きものファッションショーや着付けスクールなどが開催されて好評を博している。

国内需要の減少と古い商習がまねいた和装産業の低迷からの脱却には、世界市場に目を向けた時流に適するビジネスモデルの必要性を本作品制作のコンセプトとする。



# あらすじ

---

大学生の綾の祖母・絹江は、傘寿近くになっても、きものショーをプロデュースするなど、和装の振興に心血を注いでいた。健気な絹江だったが、痩せて体調を崩しがちになり、さらに関西万博が開幕になったころから、憂いを帯びた素振りを見せるようになった。そんな絹江からある日、綾は“秘密”を打ち明けられる。

55年前の1970年に開催された大阪万博のオープニングパレードに、絹江は振袖姿で加わっていた。そのときに見初められたイタリア人の商社マンと親しくなり、交際をはじめたという。帰国が決った男性からのプロポーズに、絹江は親の反対を押し切れず、応じることはできなかった。母国に帰って行く男性と交わした、たったひとつの約束。「日本のきもの文化を守っていく——」絹江は、その約束を生涯かけて守り抜いてきたのだった。

それから数か月後、東京の呉服商が京都の古寺で開催したきものショーをプロデュースしていた絹江が倒れる。病院に搬送されるまで、絹江は家族に隠し通していたが、末期がんだったことを綾は知る。余命僅かな絹江にしてあげられること、それはイタリアに帰って音信不通のままになっている男性を探しだし、祖母が約束を守り切ったことを伝えることだった。綾は、長い年月を経て生死すらわからない男性の所在を知るためのわずかな手掛かりを頼りに、フィレンツェへと向かう。

## 第 2 の舞台

京都・西陣に次ぐ舞台として設定するイタリアのフィレンツェ市と京都市は、2025年に姉妹都市提携60周年（1965年9月22日提携）を迎えた。フィレンツェ市内の住宅街に「via kyoto（京都通り）」が存在し、京都市から寄贈された銘板が飾られている。京都と親和性が高い都市であり、物語の重要な舞台となる。



## 海外展開の対象国

イタリアのフィレンツェ市では夏の「Festa Tanabata（七夕祭り）」と、秋の「Festival Giapponese（日本の祭り）」が1999年以来、毎年の恒例行事となっている。このイベントを主催しているフィレンツェの日伊交流協会『LILAC（ライラック）』は、イタリアの人々に日本の文化や伝統を身近に感じてもらうことを目的に活動をつづけるボランティア団体。日本語や日本料理、日本舞踊、茶道、書道などのレッスンも行っている。

本作品は、海外でも特に日本の伝統文化に関心の高いイタリアやフランスなどの西ヨーロッパ諸国を中心に海外での評価を獲得していくことをめざして制作する。



# 製作／制作

監督／脚本／編集

エグゼクティブプロデューサー

プロデューサー

スーパーバイザー

アートディレクター

医事指導

津田 哲也

未定

馬場 祐子

千秋 房子

千秋 瑠理

未定



# 千秋房子

5歳から日本舞踊を始め、18歳で「準ミスきもの」に選出されたのを機にモデルとして活動。「大阪万博」では、オープニングパレードに振袖モデルとして参加する。それらの経験を活かし、ファッションショーのディレクターや音楽ディレクター、振付などで活躍。「西陣織会館」の着物ショーでは37期にわたって常任プロデューサーを務め、天皇皇后行幸啓訪問の際の特別着物ショーをプロデュースするなど多数の実績がある。



# キャスト

塩見綾（21歳）

未定

青年期の絹江の友人（21歳）

未定

山名絹江（現在／78歳）

未定

呉服屋の社長（81歳）

未定

山名絹江（青年期／23歳）

未定

ショーのスタッフ（23歳）

未定

塩見繭子（綾の母／51歳）

関野結花梨（仮）

医師（未定）

未定

塩見清太（綾の父／58歳）

未定

看護師A（未定）

未定

靖子（綾の友人／21歳）

未定

看護師B（未定）

未定

織屋の社長（78歳）

沖村保範

Giovanni（青年期／28歳）

未定

機屋の職人

未定

Giovanni（現在／83歳）

未定

カフェのマスター（62歳）

海道力也（仮）